別紙

## 「わたしのからだは心になる？」展について

主催　東京都
開催期間　令和５年８月 30 日(水)～11 月 19 日(日)
開業時間　火曜日～金曜日 11:00 - 21:00
　　土曜日及び休日 10:00 – 19:00
休業日　毎週月曜日※9 月 18 日(月)、10 月 9 日(月)は開館
　　9 月 19 日(火)、10 月 10 日(火)
入場料金　無料
入場方法　個人は予約優先（当日枠あり）、団体は予約制
　　※予約方法は後日ご案内します。

クリエイティブディレクター　田尾圭一郎
キュレーター　塚田有那

テクノロジーの進展とともに、私たちの身体感覚はどのように変化してきたのでしょうか？　スマホの登場から生まれた指先の感覚、ゲームや VR のなかにいる自分、また今後は AI や自動運転などの普及によって、機械と身体との境界はますます曖昧なものになっていくかもしれません。その一方で、私たちは一人ひとり異なる体を持ち、細胞や臓器など体の内側までをコントロールすることはできません。自分の体はいつだって、ままならないもの。見方を変えれば、自身の体のなかには、まだまだ未知なるイメージが眠っているとも言えるでしょう。本展覧会では、アートとテクノロジーを駆使して、現代における「身体」のありようを鋭く問いかける作品群が集結。ここでは、自分固有のものだと思っていた体が、まったく異なるカタチや感覚になる体験をしたり、社会のなかの身体の存在を考えたりする機会をお届けします。

**●思考の遊び場 プレイグラウンド**

会場中央には、イベントスペースを兼ねた自由空間「プレイグラウンド」を設計。ちょっとした休憩や作品に関する意見交換をしたり、仕事や勉強を行うなど自由にお使いいただけます。多彩なイベントも開催予定です。

**●解釈を楽しむ アートコミュニケーター**

会場には、鑑賞者の解釈や理解を助けるアートコミュニケーターが常駐。コミュニケーターによる、予約不要の鑑賞ツアーも毎日行われます。「アートは難しい」という人にも、分かりやすく解説いたします。

**●未来を言葉に ボイスウォール**

会場中央のプレイグラウンドには、「ボイスウォール」と呼ばれる壁を設置。展示を体験したあとに、未来に対する鑑賞者一人ひとりのイメージを書いて貼っていただくことで、「わたしの未来はどうなるのか？」考える機会を創出します。

## 第１期展示　参加作家プロフィール【五十音順】

### ◆ Alternative Machine（オルタナティヴ・マシン）

「人工生命（ALife)」研究から生まれた理論や技術の社会応用に挑戦する研究者集団。最適化や効率化を追求するのではなく、生命的な新たなテクノロジーのあり方を探求し「あらゆるものに生命性をインストールする」をミッションとして 2017 年より活動。研究開発、プロダクト開発、アート作品の制作を行う。
https://alternativemachine.co.jp

### ◆ 神楽岡久美（かぐらおかくみ）

東京都出身。武蔵野美術大学大学院修了。歴史上、人類の身体に影響を与え続けてきた「美力（美的価値）」に注目し、現代の技術を駆使して新たな美を検証する作品を制作している。2022 年 吉野石膏美術振興財団の助成を受けニューヨーク研修。2019 年 国際シンポジウム「Art Innovation」公募展にて山峰潤也賞。
http://kumi-kaguraoka.com
Photo by Yume Takakura

### ◆ 筧康明＋赤塚大典＋吉川義盛（かけひやすあき＋あかつかだいすけ＋よしかわよしもり）

インタラクティブメディア研究者・アーティストの筧康明、Firefox の開発を中心に従事するプログラマーの赤塚大典、プログラミングを用いたビジュアルコンテンツデザインを手がける吉川義盛によるユニット。2020 年に東京大学筧康明研究室のメンバーを交え〈Air on Air〉プロジェクトを開始し、国内外の各地で展開中。https://xlab.iii.u-tokyo.ac.jp

### ◆ 小鷹研究室 as 注文の多いからだの錯覚の研究室（こだかけんきゅうしつ・ちゅうもんのおおいからだのさっかくのけんきゅうしつ）

工学博士・名古屋市立大学芸術工学研究科准教授の小鷹研理主宰。「からだの錯覚」を通じて「ミニマルセルフ（最小限の要素で構成される自己）」に深く干渉する体験を志向した展示を多数企画。2019 年より Best Illusion of the Year Contest に 4 年連続入賞。第 7 回野島久雄賞。 https://lab.kenrikodak.com

◆ **Synflux（シンフラックス）**

持続可能な次代のファッションをつくりだす思索的デザインラボラトリー。多様なジャンルの専門性をもって、領域横断的に問題に挑戦。先端のデジタル技術を活用して、個人の創造性を発露できる循環型創造社会の実現を目指す。2020 年 Global Change Award（H&M 財団）アーリー・バード特別賞。https://synflux.io

◆ **ソンヨンア＋鳴海拓志＋新山龍馬＋勢井彩華**

**（そんよんあ＋なるみたくじ＋にいやまりゅうま＋せいあやか）**

インタラクションデザイン研究者のソンヨンア、バーチャルリアリティ・認知科学研究者の鳴海拓志、ソフトロボット研究者の新山龍馬、エクスペリエンスデザイナーの勢井彩華による共同研究チーム。チームの中心となるソン研究室では、インタラクションにより変化していく感情体験と新たな価値創出に関する実践的デザインを多数企画。 https://affectivedesignlab.com

◆ **ノガミカツキ（のがみかつき）**

新潟県出身、オーストリア在住。武蔵野美術大学在学中より海外の国際芸術祭等に出展し 17 カ国で作品を発表。近年は人間の顔や肌をモチーフに、外見から形成されるアイデンティティについて問い続けている。2017 年 アルス・エレクトロニカ栄誉賞。2018 年 Forbes Japan「30 UNDER 30」に選出。https://katsukinogami.co

◆ **花形槙（はながたしん）**

東京都出身、京都府在住。慶應義塾大学 SFC 卒業、多摩美術大学大学院修士課程メディア芸術プログラム修了。資本主義社会において変容する自他の境界、人間と非人間の境界への関心のもと、「私」あるいは「人間」でなくなっていく肉体についての実践を行う。第 25 回文化庁メディア芸術祭アート部門新人賞。https://shinhanagata.com

Photo by Kaori NISHIDA

**«特別展示»**

**◇ 早稲田大学基幹理工学部表現工学科 橋田朋子研究室**

**（わせだだいがくきかんりこうがくぶひょうげんこうがくか はしだともこけんきゅうしつ）**

メディアテクノロジー研究者の橋田朋子が主宰する研究室。身近な事物や現象の潜在的な効果や機能に着目し、よく知っているようで思いがけない、見慣れないけどありうるかもしれないモノやコトを具現化する技術開発や作品制作に取り組む。本展では、伊藤大貴、稲垣年紀、小野北斗、登山晴、増田和、森田茉莉、安村俊介らがメンバーとして参画。 https://tomokohashida.tumblr.com

**«関連展示»**

**◇ 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター**

**（とうきょうとけんこうちょうじゅいりょうせんたー）**

高齢者医学・福祉に関わる研究所を併設した、高齢者医療を専門とする総合病院。専門性の高い医師・看護師など職員が一体となったチーム体制で、最先端の医療から高齢者一人一人に寄り添う医療まで、急性期病院として高齢者の特性に配慮した高度医療を幅広く提供。大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う。 https://www.tmghig.jp

**«関連展示»**

**◇ 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター**

**（とうきょうとりつさんぎょうぎじゅつけんきゅうせんたー）**

中小企業に対する技術支援により、東京の産業振興を図り、都民生活の向上に貢献することを目的として、東京都により設立された公設試験研究機関。中小企業の課題解決のために、技術支援や研究開発を実施。依頼試験や機器・設備の提供、セミナー開催も行なう。近年は知見を活かしたデジタルトランスフォーメーション（DX）推進に注力。 https://www.iri-tokyo.jp

## クリエイティブディレクター、キュレータープロフィール

**クリエイティブディレクター　田尾圭一郎**

アートの企画・編集・コンサルティングを手掛ける「田尾企画 編集室」代表。博報堂を経たのち、美術出版社「美術手帖」ユニットにて企業や自治体とのアートプロジェクトの企画、地域芸術祭の広報支援、雑誌・書籍の編集、展示企画などに携わる。主なプロジェクトに「文化資本経営促進に関する調査研究事業」（経済産業省）、「文化経済戦略推進事業」（文化庁）、「ZOOOOOM ART PROJECT」、「美術手帖×VOLVO ART PROJECT」など。ウェブメディア「prepar.art」編集主幹。

Photo by Masaru Tatsuki

**キュレーター　塚田有那**

編集者、キュレーター。一般社団法人 Whole Universe 代表理事。ウェブメディア「Bound Baw」編集長、「DISTANCE.media」編集委員。2016～21 年 JST/RISTEX「人と情報のエコシステム（HITE）」のメディア戦略を担当。2021 年より、岩手県遠野市の民俗文化をめぐるツアー「遠野巡灯篭木（トオノメグリトロゲ）」を主催。2021、22 年 現代社会をめぐる様々な死をテーマとした展覧会「END 展」を主催。近年の編著作に『RE-END 死から問うテクノロジーと社会』（人工知能学会 AI ELSI 賞受賞）、『ART SCIENCE is. アートサイエンスが導く世界の変容』。